

特集

グリーン・ツーリズムに 出かけよう!

Let's go
Green tourism!



養蜂農家での体験の様子。蜜箱を観察しながら、ハチの生態の説明を受ける生徒たち

グリーン・ツーリズムとは、農山漁村地域に滞在し、自然、文化、人々との交流を楽しむ余暇活動のことです。都市住民が活動を通して心身のリフレッシュを図ると同時に、受け入れ側の農山漁村でも地域の活性化につながることから県内各地で取り組みが進んでいます。

今回の特集では、農業体験、農家民宿など、県内のグリーン・ツーリズムの取り組みについて紹介します。



グリーン・ツーリズムって何？

主として都市住民が余暇を利用して農山漁村に滞在しながら自然や文化、人々との交流を楽しむグリーン・ツーリズム。農山漁村での収穫・加工体験や直売所の地域農産物の購入、農家での宿泊など幅広い活動を通して、その地域の農業や農村などを理解するとともに、心身のリフレッシュを図るものだ。

また、受け入れ側の農山漁村側では、都市住民との交流を通して地域の知名度・好感度の向上や、女性・高齢者の活躍・生きがいの場の提供、農家民宿などによる農家所得の向上など農山漁村の活性化の一つとして期待されている。

かごしまグリーン・ツーリズム協議会

年間を通じて、鹿児島ならではの地域の特性を生かしたグリーン・ツーリズムを県全体で推進していくと、平成22年5月に県域の組織として設立された「かごしまグリーン・ツーリズム協議会」。県内でグリーン・ツーリズムに取り組んでいる方々や団体・市町村などの活動を支援し、ネットワーク化を図ることと、グリーン・ツーリズムを推進する気運を高め、農山漁村がさらに活性化することを目指している。

「鹿児島の農山漁村には、豊富な資源が数多くあり、それ

ぞれの地域で受け入れ体制も確立しつつあります。協議会では、農林漁業体験を安全に提供できるようにリスクマネジメントに特に力を入れています」と話すのは、事務局長の東川美和さん。「農林漁業ばかりでなく県内のあらゆる

分野に波及効果を生み出せるものだと思います。そういったことを県内外の方々に知っていただきながら、また訪れたいと思ってもらえる魅力のある場所を増やしていくことが今後の課題です」。



県内の農家民宿経営者の交流会



県内各地でグリーン・ツーリズム研修会を開催



かごしまグリーン・ツーリズム協議会 事務局長 東川 美和さん

グリーン・ツーリズムは、県内各地で飛躍的な広がりを見せていますが、第一次産業の置かれている状況は、まだまだ厳しいのが現状です。活気のあるむらづくりには、農山漁村地域に人の流れを作り地域と関わりのある方を増やすことも効果的な方法。ノウハウや情報を集めることで地域を活性化していきたいです。

【問い合わせ先】

かごしまグリーン・ツーリズム協議会
鹿児島市小川町 17-11 中村ビル 202 ☎099(248)8185

地域協議会の取り組み

種類が豊富な農業体験

出水市元気再生創出協議会(出水市)

教育旅行の受け入れを柱としたグリーン・ツーリズムの推進を目的に設立された「出水市元気再生創出協議会」。出水市を中心に、「コーディネート機関のNPO法人環不知火プランニングや市観光協会などと連携しながら事業を進めている。

ツルや武家屋敷という観光資源もあり、観光客も多い半面、通過型で市内での宿泊には結びつかなかつたという出水市。通過型から出水の豊かな自然を生かした滞在型の交流人口の増加を目指し、教育旅行の誘致を始めた。

「日本の教育旅行は、1年以上前に行き先が決まっています。そこで、2、3カ月前に行き



「出水には、いろいろな種類の農家があり、さまざまな農業体験ができるのが魅力です」と話す堀さん。

【問い合わせ先】

出水市元気再生創出協議会

「事務局:NPO法人環不知火プランニング」
出水事務所

出水市昭和町16-5 出水観光ビル2階

☎0996(79)3320

先が決まる海外からの教育旅行の受け入れから始めました」と出水市観光交流課の堀昌伸さん。海外からの受け入れということで、当初は心配な部分もあつたという。「事前に英語の講習会を実施するなど準備を進めました。今では、異文化に触れあう機会ということで農家の方も海外からの教育旅行の受け入れに積極的です」。

今年からは、国内の教育旅行の受け入れも始まった。九州新幹線の全線開業の効果もあり、関西を中心とした学校の受け入れが増えている出水市では、年内に約1700人の受け入れを予定している。

いのち育む学びの旅



出水市青年の家での入村式

出水市と友好都市提携を結ぶ山口県周南市の周南市子ども会育成連絡協議会の児童・生徒87人が平成23年7月24日から1泊2日の日程で出水市の農家24軒を訪れ農家民泊を行った。

出水市野田町で養蜂を営む福井義博さん、敏子さん夫婦が経営する「農家民宿たけ山荘」にも、今回初めて鹿児島を訪れたという中学生4人が宿泊し、養蜂についての説明や、出水名産のみかんの摘果などを体験した。

「農家民泊を楽しみに来ました。養蜂体験も初めてで、いい思い出になりました」と中学1年の熊谷萌嘉さん。出水の自然を満喫した。



福井さん夫妻(両脇)に囲まれてにっこり



福井さんから蜂の生体について説明を聞く生徒たち



入村式終了後、受け入れ農家の車で、各家庭へ向かう



受け入れ農家との対面



左から、コミュニティ主事の^{おおはら はるみ}大原春美さん、副会長の^{くろむしや まさふみ}黒武者雅文さん、水流会長

活気のあるむらづくり 大馬越地区コミュニティ協議会(薩摩川内市入来町)

薩摩川内市入来町の大馬越地区は、日本棚田百選にも選ばれている美しい農村景観が残る地区。市町村合併で誕生した小学校区単位のコミュニティ協議会である大馬越地区コミュニティ協議会は、平成17年4月に設立された。平成18年度から遊休農地や休耕田で栽培し

た青しそ・赤しそで、しそジュース「しそっぷ物語」を製造・販売し、むらづくりにつなげている。

協議会では、都市農村交流の一環として農業体験も行っている。鹿児島市内を中心に集まった親子連れを対象とした「農業・農村体験・バスツアー」では、棚田での田植えや竹細工体験などで大馬越地区の魅力を発信している。「初めての体験に子どもたちは、大はしゃぎです。親御さんたちにも懐かしいと童心に返って楽しんでもらっています」と話すのは、水流信雄^{つるぎ のぶ}会長。田舎の良さ、大馬越の自然の素晴らしさを知ってもらいたいと協議会のメンバーでアイデアを出し合う。

「集落には元気な高齢者も多いので、昔から伝わる手習いなども企画しながら、交流人口を増やしていきたいです。5年、10年後を見据えた、自然の中で楽しんでもらえるような地区づくりを目指しています。」

【問い合わせ先】

大馬越地区コミュニティ協議会(事務局)
薩摩川内市入来町浦之名3492-4
☎0996(44)2773



懐かしい竹細工体験



田植え体験



入来のおいしい水で作られた「しそっぷ物語」。しその香りを逃さないようにと、ほとんどが手作業で作られている。毎年購入するリピーターも多い。

九州グリーン・ツーリズムシンポジウム2011 ~良か余暇 KAGOSHIMA2011~が開催されます

九州各県のグリーン・ツーリズム実践者が年に1回、一堂に集まる九州グリーン・ツーリズムシンポジウム。平成23年度は11月4日、5日の日程で鹿児島県さつま町などで開催されます。

● 11月4日(金) 全体シンポジウム:午後1時~午後4時45分 大交流会:午後5時~午後7時

* 県内で教育旅行のコーディネートをを行うNPO法人による講演など

● 11月5日(土) 午前9時30分~午後2時

* 北薩摩まるごと体験塾(出水市、薩摩川内市、伊佐市、さつま町)
北薩摩地域ならではのプログラムの体験など。

※シンポジウムへの参加方法・申し込みについては下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】九州グリーン・ツーリズムシンポジウム 2011 実行委員会事務局 ☎099(248)8185